

# 旧北上川河口かわまちづくり検討会資料

## かわまちづくり・景観配慮にあたっての 視点及び配慮事項（案）

平成25年7月22日

東北地方整備局 北上川下流河川事務所

# 旧北上川河口部における基本条件

## ■変更不可な項目

項目		基本条件	備考
堤防高		T.P.+7.2m	河口～1.6km
		T.P.+7.2m～T.P.+4.5m	1.6km～1.9km(すりつけ区間)
		T.P.+4.5m	1.9km～石巻大橋
		T.P.+4.1m	3.4km～4.8km (右岸は既設堤防有り)
堤防法面構造	三面張り区間	河口～1.0km	川前:コンクリートブロック(2t) 川裏:コンクリートブロック(2t)+覆土+張芝
	その他の区間	1.0km～上流区間	川前:コンクリートブロック(350kg以上/m <sup>2</sup> )+覆土+張芝 川裏:張芝
法勾配		基本 1:3	※テラス幅に余裕があるところや残地が出たところは微調整可
堤防天端幅		6.0m	河川構造令では計画高水流量から天端幅5m以上であるが、北上川のこれまでの整備経緯を踏まえて6mとする。(ワンランクアップ)
低水護岸		天端高T.P.+1.7m	最小必要テラス幅部分については変更不可
用地幅		災害復旧断面として必要な幅	
港湾区域(船着場)の水深の確保【繫船設備】	右岸	水深約2.9m(DL-2.0m)	DL-2.0m:0.9k～1.0k
		水深約5.4m(DL-4.5m)	DL-4.5m:1.0k～1.2k
		水深約3.4m(DL-2.5m)	DL-2.5m:1.8k～2.2k
		水深約4.4m(DL-3.5m)	DL-3.5m:2.2k～2.4k
坂路	堤内側	位置	用地の関係から調整不可

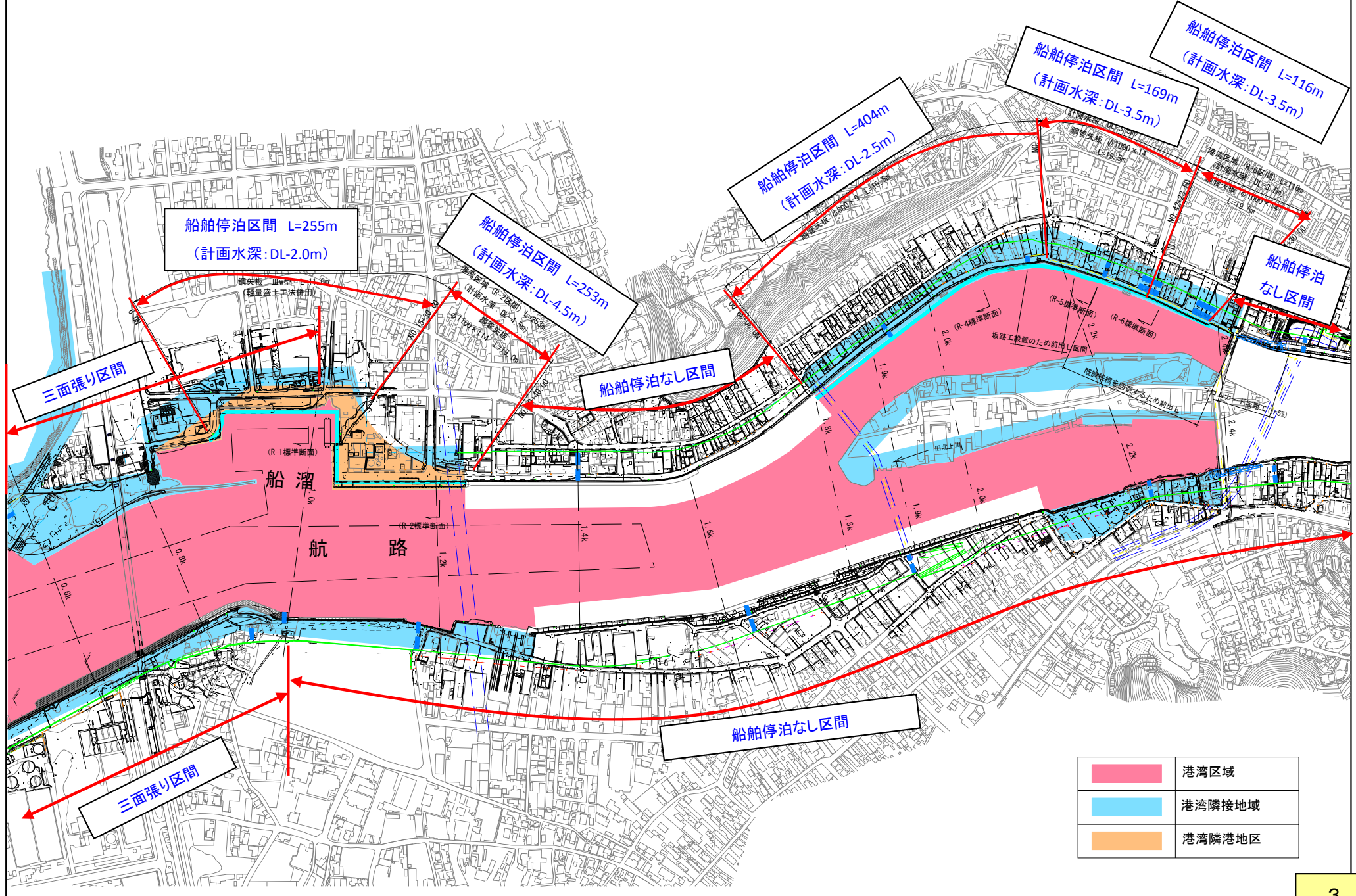
# 旧北上川河口部における基本条件

## ■変更・調整可能な項目

項目		検討可能項目	備考
低水護岸		低水(矢板)護岸の線形	水際部の線形の微修正、テラス幅の調整、線形の微修正
		根固めの天端高	港湾区域を除く高さ調整
		笠コンクリートの修景	材質、色
		天端高	テラス幅に余裕がある区間は部分的に下げることが可能
テラス		テラスの構造(舗装)	材質、色
		テラスの構造(幅員) 3.5m～5m程度、拠点は5m以上	河川管理及び防災、利活用の面からの必要幅を踏まえて調整可能
防護柵		防護柵設置位置	船着場(荷揚場)及び利活用を考慮し調整が可能
		防護柵の構造	形状、材質、色
堤防 法面 構造	階段	階段の構造	形状、材質、色、位置
	三面張	コンクリートブロックの種類	形状、材質、色
		コンクリートブロックの隔壁	材質、色、設置間隔
覆土	覆土の厚さ・形状(法勾配)	堤内地に残地がある場合 堤外地でテラス幅が確保できる場合	
堤防天端部		天端の構造(舗装)	材質、色
坂路		勾配、幅、形状	堤内側:微修正は可能 堤外側:テラス幅の範囲で修正可能
腹付盛土		盛土形状、位置	堤内地側、連続植栽、利用なども可能

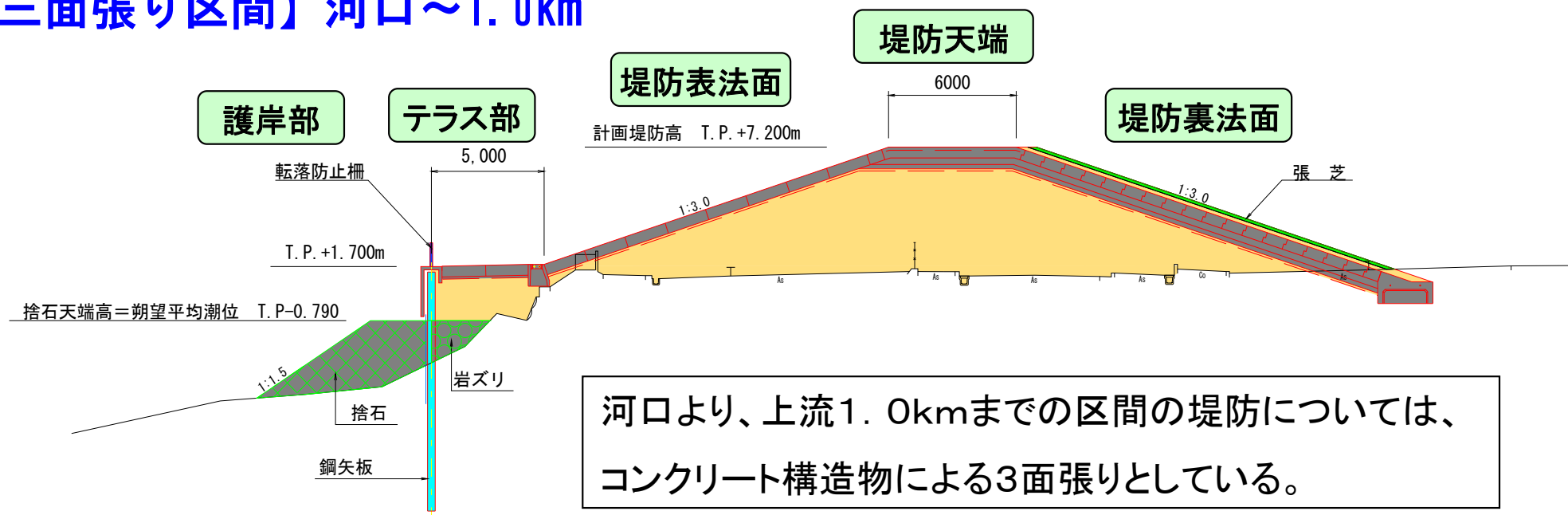
# 旧北上川河口部災害復旧箇所平面図

計画平面図 S=1:2,500  
(旧北上川右岸河口部)

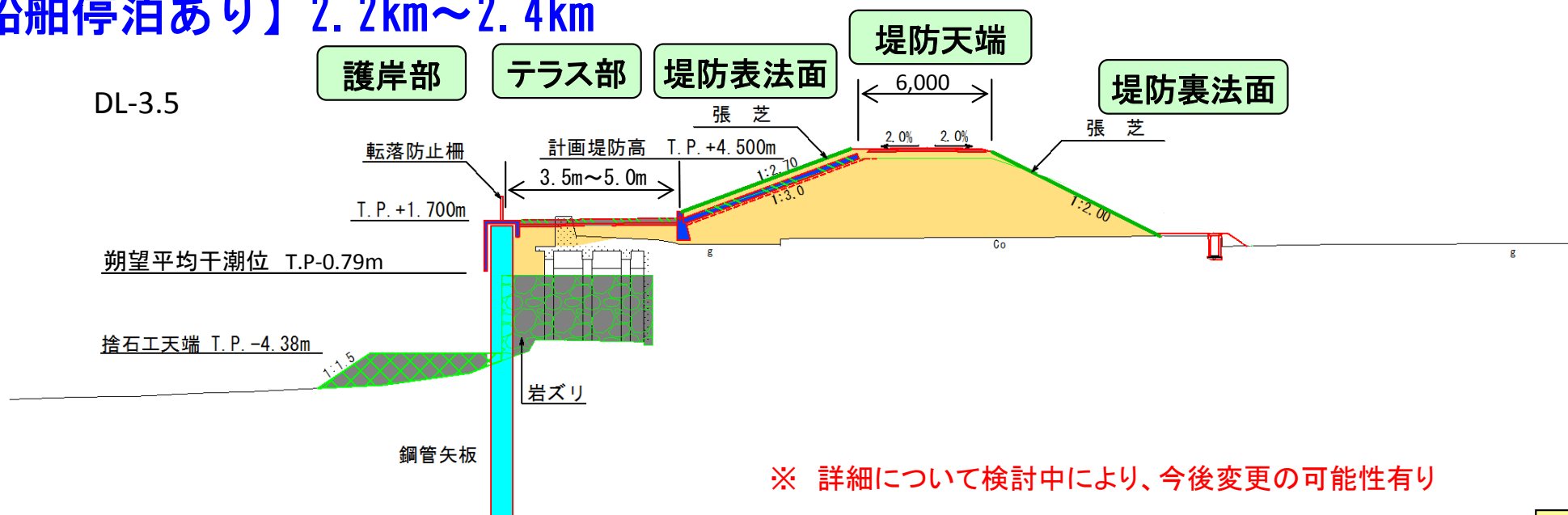


# 断面模式図

## 【三面張り区間】 河口～1.0km



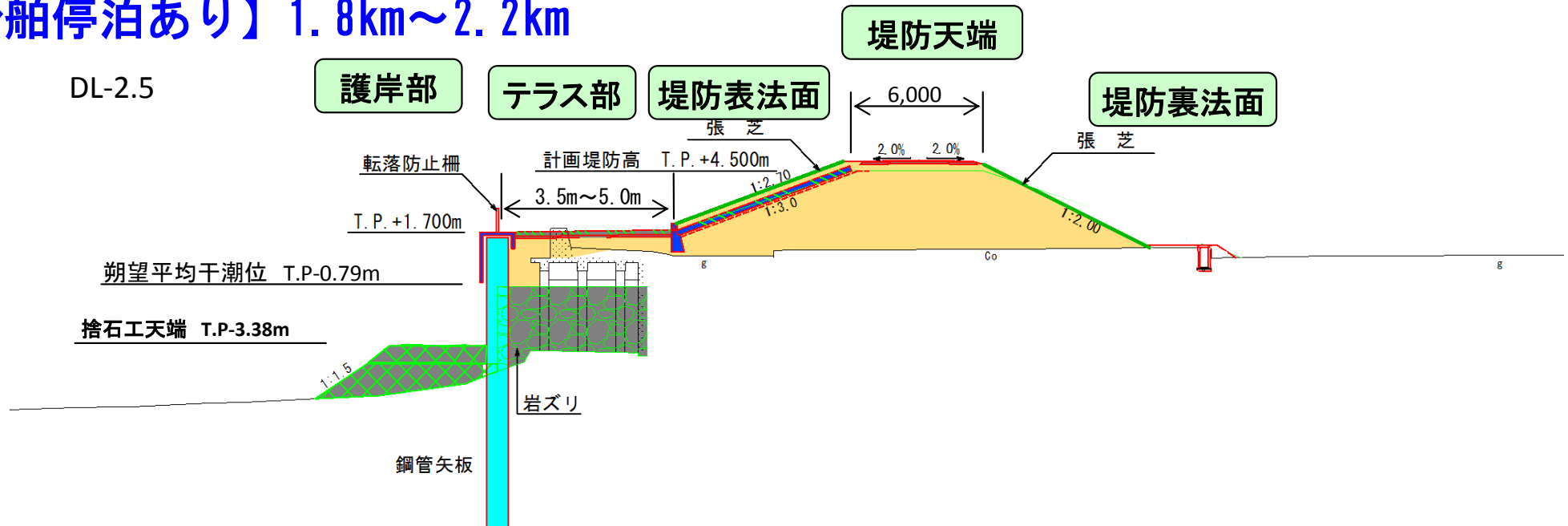
## 【船舶停泊あり】 2.2km～2.4km



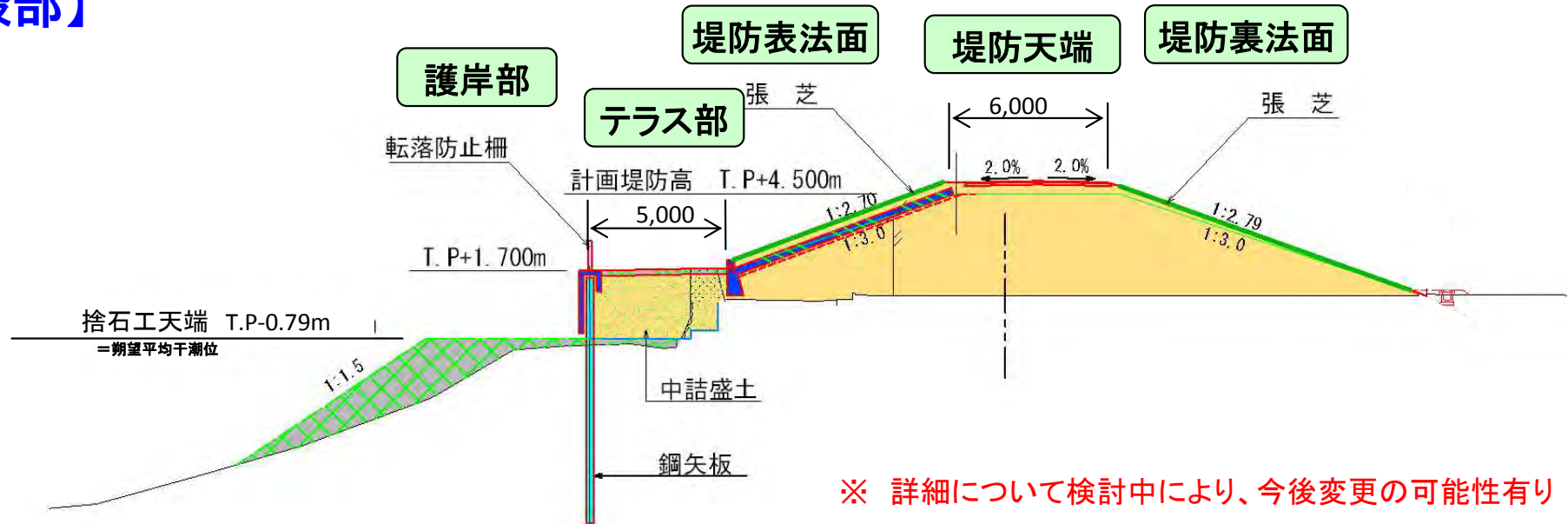


# 断面模式図

## 【船舶停泊あり】 1.8km～2.2km



## 【一般部】



※ 詳細について検討中により、今後変更の可能性有り

# 旧北上川の歴史、文化、地域特性

- 北上川の改修は古くは宝亀11年(780)から行われたとされています。その後、慶長から元和年間(1596-1623)にかけて洪水防御と舟運目的に改修が行われています。
- 江戸時代に入ると、河川改修による新田開発と領内でできた米を江戸へ輸送するための集積地として発展し、町並みの礎が形成されました。
- 明治以降も鉄道が開通しなかった宮城県の川沿いの地域では水上交通が重要視され、ひらた船、蒸気船、発動汽船が往来し、石巻―追波湾航路が昭和29年まで運行されました。その後も砂利運搬船に姿を変えて使われ昭和63年に姿を消しました。
- 昭和30年代の河口港である石巻港は台風や避難港として4,5百隻が川幅一杯に係留する場合も多かった。



明治期には蒸気船が運航するなど、舟運が発達。



昭和30年代の石巻(旧北上川河口部)のようす

# 旧北上川の歴史、文化、地域特性

- 住吉公園の中央に延喜式内社飯石大島神社(住吉神社)があり、公園前の北上川にある島を御島と呼び、島の北側の松の下の川に石巻の地名の由来となった「巻石」があります。北上川の水がこの石にあたって渦を巻くのでそう呼ばれたと言われます。
- 千石船でにぎわった石巻の江戸時代には出航に都合の良い風向きや潮の流れを見たところで「日和」を見る場所であるところから「日和山」の地名が起こったと考えられます。
- 日和山に鎮座する鹿島御児神社(延喜式内社)は、常陸国の鹿島神宮の苗裔社(子孫)で、地元神に対して外来神とされています。鹿島神は陸奥国の海岸と河川沿いに伝わった神ですが、牡鹿、黒川(宮城県)、信夫、磐城、行方(福島県)郡に各1社、亘理郡に3社とあわせて8社あります。
- もともとの古い地名は「井内」で井内石としても全国にも知られていました。明治22年に稲井地区の8カ村が合併し稲井町となりました。このときの町名は米が多く取れるようにという願いから「稲井」とつけられました。





# 景観配慮方針案

ゾーン	区間(目安)	対応するプロムナード計画	地域の意見(ゾーンに関する具体的なもののみ)	条件等	景観配慮方針	配慮項目
A 記憶を伝える 祈念の杜と海	右岸0.6k-1.2k	ルート「旧北上川と石巻湊ルート」 2「鎮魂と祈りと絆の杜／水上交 拠点B 通拠点」		内港、祈念公園	・海との関係性、内港としてふさわ しいデザイン ・舟のある景観の保全 ・祈念公園との一体的整備	・公園との一体性 ・水上交通拠点 ・マリーナ計画
B 海とみなとをつなぐ 日和山の袂	右岸1.2k-2.2k 左岸0.6k-3.4k	ルート 2「旧北上川と石巻湊ルート」 ルート「居住と産業が隣接した憩いの 3 ルート」 ルート「スポーツと学びのルート」 6	・再開発地区と対照的に、湊地区 の計画が何もなされていないので はないか	居住区域(土地区画整 理) 産業集積地	・中心市街と祈念公園・内港との つながりを強化 ・回遊を誘発するよう、シーケン ス景観を意識したデザイン ・日和山からの見えを意識したデ ザイン ・現況の地形をふまえた水辺のア ンデューレーションの継承	・連続植栽・休憩スペースの設置 ・1.6k-1.9k区間の堤防高の変化 ・ボートや釣りなどの河川利用をふ まえた親水性・利便性の高い護 岸整備 ・(左岸広幅員テラス部)植生・堤 防勾配の工夫
C 歴史・文化・学び・に ぎわい あふれるかわみなど 石巻	右岸2.2k-3.4k 中瀬	ルート 2「旧北上川と石巻湊ルート」 拠点C 拠点D 「『食彩・感動いしのまき』 「『石巻の歴史』と『水と共に生き た文化』を伝えるシンボル空間」	・これまで船着場として中瀬や住 吉神社下流を利用してきたが、そ れの復活が絶対必要である ・石巻駅から萬画館への回遊経 路を考えると、堤防背後地の利用 について、他の地域にはない、石 巻独特の整備を望む ・住吉地区の今後のまちづくりが 検討されていないが、住吉公園で 行われるどんと祭りなどは市のメ イン行事であり、堤防用地にかかる 公園をどのように処理するか	中心市街地(土地区画整 理) 中瀬地区(公園) 住吉神社・雄島 環境学習(住吉小学校) 居住区域(既成住宅地)	・にぎわい中心・観光拠点として ふさわしいデザイン ・水際広場など、来街者の滞留空 間として機能する場の確保 ・中心市街地とのつながりを強化 ・萬画館・ハリストス正教会に加 え、湊町の記憶や暮らしを継承す る機能を付加し、観光拠点性を 強化 ・住吉神社・雄島の歴史性をふま えた整備 ・住吉小学校の児童たちが、環境 学習を行える場の整備	・背後地の再開発計画と一体的 な整備 ・既設護岸に用いられてきた井内 石の使用 ・ステップ幅の確保と階段(親水 護岸含む)の整備 ・中瀬からの視対象として、「湊」 「石」が感じられる護岸修景 ・防護柵などについて、安全性・ 機能性と親水性・利便性の両立 配置など ・住吉神社・雄島の旧来の空間 ・環境学習が可能かつ、事故の 起きにくい親水空間
D 歴史を刻む石のさと	左岸3.4k-4.8k	ルート 6「スポーツと学びのルート」		居住区域(既成住宅地)	・既成住宅地の住環境を向上さ せる、日常の場のデザイン ・住吉神社・牧山(井内石産地) を取込んだ、石巻らしさの演出	・自転車・自動車など日常の堤防 利用をふまえた舗装(アスファルト など) ・右岸の植生・左岸の石切り場な ど石巻らしい景観を活かす、シ ンプルな堤防

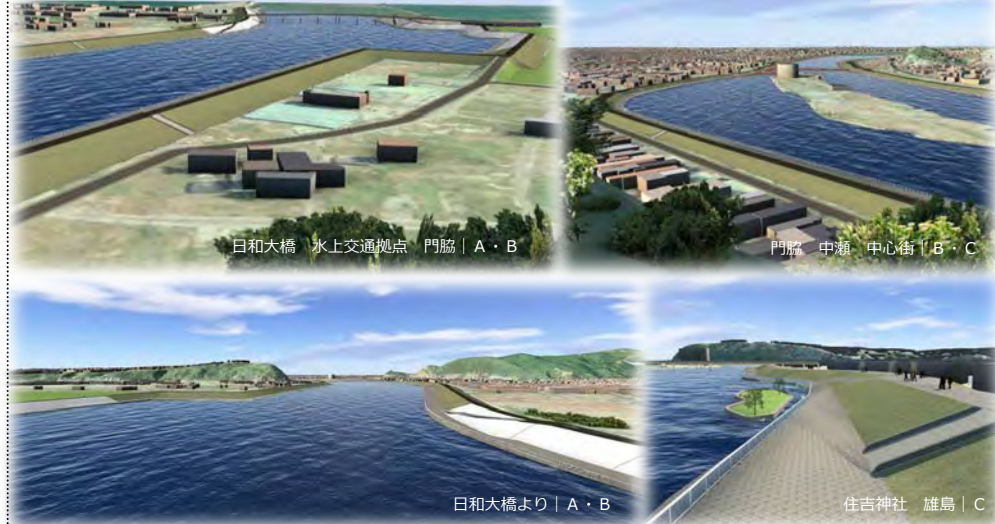


# 旧北上川河口景観検討 ゾーニング案および整備方針案

## ■全体整備方針

- ・ 従来より無堤のため、洪水、高潮などの危険にさらされてきたが、津波による被害を踏まえ、背後の人口・資産を守るため**堤防整備を行う**。
- ・ 古くから**湊町として発展してきた歴史**と、**優れた石の生産地**であることをベースとした空間設計とする。
- ・ 石巻市の**プロムナード計画**を踏まえ、川沿いを快適な水辺の散策路として整備する。
- ・ プロムナード計画の中核であり、観光拠点でもある**中央街区・中瀬地区は、来街者の滞留空間**として整備する。
- ・ 祈念公園・水上交通拠点となる内港地区、および、プロムナード計画の中核となる中央街区は、水辺へ人を引き込むよう、**堤内地と川とのつながりを強化**する。
- ・ 住吉神社・雄島は、**石巻の歴史・文化を伝える拠点**として整備する。
- ・ 既成住宅のあるエリアは、**地域住民が過ごしやすく、また、住吉小学校などの児童が環境学習を行えるような親水空間**とする。

## ■イメージパース



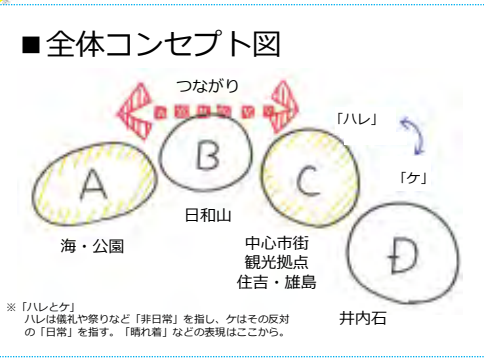
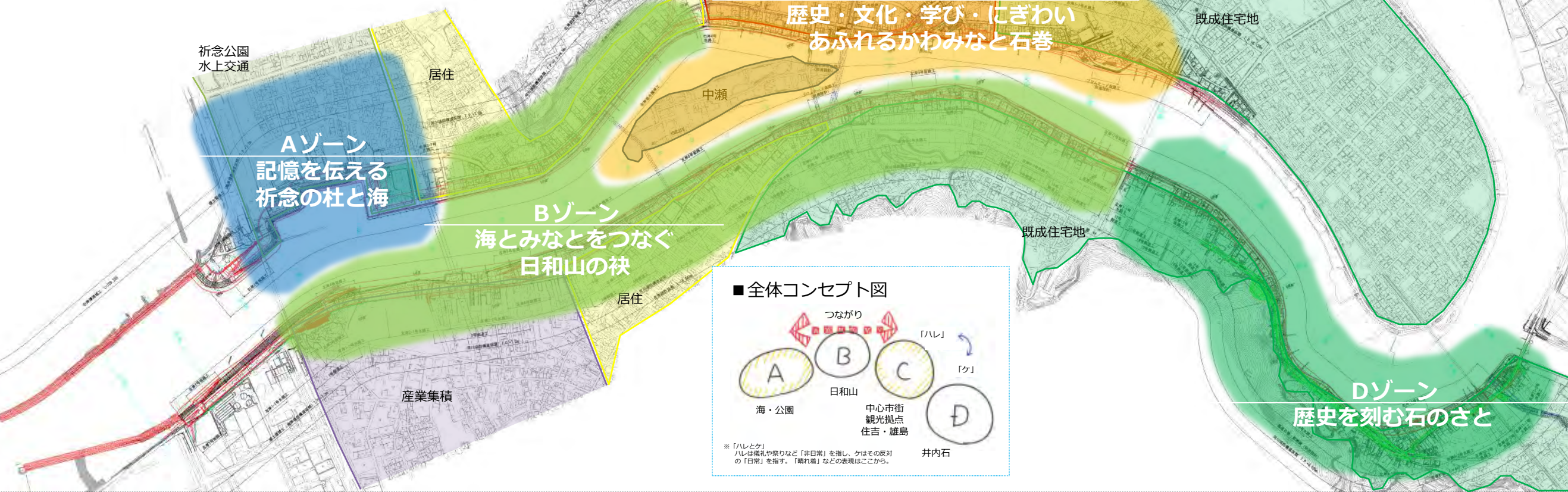
## 歴史・文化・学び・にぎわい あふれるかわみなと石巻 -石巻のコア：中瀬・中央・住吉神社-

- ・ にぎわいの中心、観光拠点としてふさわしい**「ハレ」の場としてのデザイン**とする。
- ・ 水際広場などを確保し、中心市街地とのつながりを強化することで、**来街者の滞留空間として機能する場を創出**する。
- ・ 中瀬は萬画館、ハリストス正教会など既存の施設に加え、**湊町の記憶や暮らしを継承し発信する機能を持たせ、石巻の観光拠点性を強化**する。
- ・ **住吉神社・雄島は歴史を体現**させ、本来の姿に配慮した整備を行う。
- ・ 住吉小学校をはじめとする石巻の児童たちが、川にふれあい、**環境を学べる場となる水辺空間を創出**する。

## ■整備における配慮事項

- ・ 背後地の再開発計画と一体となった堤防周辺空間整備を行い、**拠点性を強化**する。
- ・ 地域性、歴史性を持たせる素材として、既設護岸に用いられてきた井内石を用いる。
- ・ 滞留空間とするため、ステップ幅を確保するとともに、階段（親水護岸含む）を整備する。
- ・ 中瀬から、「湊」「石」が感じられる護岸修景とする。
- ・ 防護柵など安全面の機能性を、親水性、利便性と矛盾しない形で整備する。
- ・ 住吉神社・雄島の旧来のあり方を空間計画に取り込む。
- ・ 環境学習が可能かつ、事故の起きにくい親水空間を検討する。

## ■ゾーニング案および整備方針案



### 記憶を伝える祈念の杜と海 -復興祈念公園と水上交通拠点-

- ・ 海との接続部・離島航路の結節点として、海との関係性を重視ながら、**内港としてふさわしいデザイン**とする。
- ・ 海が見え、波音が聞こえるのびやかな空間整備とする。
- ・ 石巻市と協議をしながら、**祈念公園と堤防・護岸を一体的に整備**し、祈念公園とプロムナードに人の流れを生み出す。
- ・ 市のマリーナ計画と協働し、石巻の特徴である**舟のある景観**を残す。

### ■整備に向けた配慮事項

- ・ 祈念公園の復興アーカイブ機能、離島航路結節点の水上交通など、**拠点性の高い事業と川とのつながり**を生む整備とする。
- ・ 公園と護岸・堤防の一体性を確保できる**景観整備**とする。
- ・ 河口部におけるボートや釣りなどの河川利用を踏まえ、**親水性、利便性の高い護岸整備**とする。

### 海とみなとをつなぐ日和山の袂 -憩いを感じる水辺の散策路-

- ・ 門脇地区（右岸）は、中心市街と祈念公園・離島航路結節点とを接続するルートとして、**歩いてみたくなる水辺空間**を創出する。
- ・ 回遊を誘発する、**景観の展開や移り変わり（シークエンス景観）を意識したデザイン**とする。
- ・ 湊地区（左岸）は、石巻の主要な視点場である**日和山からの見えを意識したデザイン**とする。
- ・ 現況の地形をふまえた**水辺のアンデューレーションを継承**する。

### ■整備に向けた配慮事項

- ・ 水辺のアンデューレーションを継承するため、**ステップの線形に変化を与える**。
- ・ 1.6k~1.9k区間は、堤防高の変化に対応して、**景観の移り変わりを**感じられるデザインとする。
- ・ 湊地区（左岸）は、背後の住宅地や、対岸の日和山からの視対象となることを意識し、**連続植栽や休憩スペース**を設けて憩いの場の機能を持たせる。
- ・ 広幅員のテラス部（左岸）は、**植生・堤防勾配などを工夫し、快適な水辺空間を創出**する。

### 歴史を刻む石のさと -井内石の生産拠点地域-

- ・ 井内石の生産地である**牧山を取込んだデザイン**とする。また、**住吉神社との関係性にも配慮したデザイン**とする。
- ・ 日常の空間としての性格を持った、**「ケ」の場としてのデザイン**とし、**既成住宅地の快適な住環境に寄与する空間設計・環境整備**とする。
- ・ 地域住民のニーズを反映した整備を行い、たとえばサイクリングや釣りといった、**日常の広がる風景**を生み出す。

### ■整備に向けた配慮事項

- ・ 右岸の植生、左岸の石切場など、**石巻らしい景観を活かすため、シンプルな見えの堤防**とする。
- ・ 日常空間としての堤防使用のため、自転車、自動車などの利用をふまえた**舗装（アスファルトなど）**とする。